

授業科目 (科目ID)	基礎生化学演習  22m112		担当教員  (実務経験)	福士 勝  検査センター生化学検査業務に従事し、 当該科目の教育を行う	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	糖・脂質・蛋白質・核酸の消化・吸収と体内の代謝(合成・分解反応)とそれぞれの物質の代謝の相互作用について学ぶ。				
到達目標	糖・脂質・蛋白質・核酸の消化・吸収と代謝(合成・分解反応)が説明できること。物質の代謝の相互作用について説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「生化学」(医歯薬出版)				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体70%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体10%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体20%の評価点とする。		
	レポート	%			
	小テスト	10%			
	提出物	%			
その他	20%				
履修上の 留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に演習形式の授業を行う。②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。 ③実習につながる授業内容であることを常に念頭に入れて、授業を受けること。④提出物の提出期限は守ること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	代謝の概要	生体物質の代謝と相互作用と調節		
	2	糖質の代謝①	消化・吸、グリコーゲンの合成と分解		
	3	糖質の代謝②	解糖系と糖新生系、ペントースサイクル		
	4	糖質の代謝③	クエン酸サイクルとATP合成		
	5	脂質の代謝①	脂質の消化・吸収、脂肪酸の酸化分解と合成		
	6	脂質の代謝②	コレステロールの代謝、リポ蛋白の代謝、中性脂肪の合、リン脂質の合成・分解		
	7	アミノ酸とタンパク質の代謝①	タンパク質の消化とアミノ酸の吸収、アミノ酸の分解(脱アミノ反応・脱炭酸反応)		
	8	アミノ酸とタンパク質の代謝②	アミノ酸の分解(芳香族アミノ酸代謝・メチオニン代謝)		
	9	アミノ酸とタンパク質の代謝③	尿素サイクルとアンモニアの処理、クレアチンとクレアチニン合成、アミノ酸の合成		
	10	ヌクレオチドと核酸の代謝	核酸の消化・吸収、ヌクレオチドの合成・分解、ヌクレオチド誘導体の機能		
	11	代謝調節と代謝統合	合成と分解の切り替え・代謝の臓器間の関係・無機質代謝・ヘムの代謝		
	12	細胞制御と細胞周期①	細胞の機能制御と情報伝達、ホルモンの分類・作用機序		
	13	細胞制御と細胞周期②	細胞内のシグナル伝達因子と情報伝達経路、細胞増殖の制御		
	14	遺伝子の生化学	遺伝子の複製と修復・遺伝情報の発現・遺伝子解析・遺伝病		
15	生化学演習のまとめ	小テスト まとめ			

授業科目 (科目ID)	基礎生理学  22m113		担当教員  (実務経験)	一瀬 信敏  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	人体各部位の正常な状態における機能とそれを支える機序、それらの人体における役割を学ぶ。				
到達目標	人体各部位の機能と役割を理解し、臨床検査技師に必要な生理学全般についての基本事項を説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「生理学」(医歯薬出版) ・必要に応じてプリント				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体70%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体20%の評価点とする。 ③授業の参加態度などを平常点として科目成績全体10%の評価点とする。		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
参加態度	10%				
履修上の 留意事項	①スライドと板書を使用して講義を行う。②スライドのレジュメは縮小印刷して、毎回配付する。③講義の冒頭で前回講義の内容に関する小テストを実施する。講義で人体各部の機能と仕組みを理解した上で、その内容を学習すること。そのために予習と復習を行って知識を定着させること。講義を通じて人の「生きるしくみ」の理解につとめ、疑問点があればどしどし質問すること。質問は歓迎する。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	神経の生理①	興奮(活動電位)の発生機序		
	2	神経の生理②	神経細胞の機能		
	3	神経の生理③	神経系の機能		
	4	感覚	感覚の特性と機能		
	5	筋の生理①	骨格筋収縮の機能と調節		
	6	筋の生理②	筋収縮のエネルギーと心筋・平滑筋の特徴		
	7	循環①	心拍動の機序と心電図		
	8	循環②	循環の調節と血管の機能		
	9	呼吸	呼吸機能と調節		
	10	消化と吸収	消化管の機能と栄養の吸収		
	11	代謝と体温調節	代謝の基礎と体温調節		
	12	尿の生成と排出①	腎の構造と機能		
	13	尿の生成と排出②	体液の恒常性維持の仕組み		
	14	内分泌	ホルモンの調節と作用		
15	生殖	生殖の仕組み			

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

臨床検査学科

授業科目 (科目ID)	基礎病理学  22m114		担当教員  (実務経験)	藤田 昌宏  検査センター病理検査業務に従事し、 当該科目の教育を行う 別紙1参照	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	さまざまな疾患の病態を学ぶ。検査に必要な病理学総論・各論を学ぶ。				
到達目標	ヒトの生理学的現象を病的変貌から追求し病気の本態を説明できる。正しい医学用語について説明できる。疾患を論理的に理解し、説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「病理学／病理検査学」(医歯薬出版) ・プリント				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体80%の評価点とする。 (病理分野を科目全体の70%、細胞診分野を科目全体30%の評価点とする。) ②レポートの得点を科目成績全体10%の評価点とする。 ③小テストの得点を科目成績全体10%の評価点とする。		
	レポート	10%			
	小テスト	10%			
	提出物	%			
その他	%				
履修上の 留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②解剖学をしっかり復習し、関連付けて病理学、臨床検査医学総論演習につなげること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	病理学とは何か	意義、中身、疾病の成立、病理解剖の役割—死の解明、病理学における方法(藤田)		
	2	染色体、遺伝子、発生の異常	染色体・遺伝子の異常、染色体異常症、先天性形態異常(奇形)(藤田)		
	3	細胞障害とその修復機構①	組織細胞傷害をきたす因子と傷害機序、細胞傷害の形態像、壊死、アポトーシス(藤田)		
	4	細胞障害とその修復機構②	肥大、過形成、萎縮、化生、再生、創傷の治癒と肉芽組織(藤田)		
	5	物質代謝異常①	糖質代謝異常、脂質代謝異常(藤田)		
	6	物質代謝異常②	蛋白質・アミノ酸代謝異常、生体色素代謝異常(藤田)		
	7	物質代謝異常③	無機物代謝異常(藤田)		
	8	循環障害①	局所の循環障害(藤田)		
	9	循環障害②	全身の循環障害(藤田)		
	10	炎症①	炎症の形態的経過、炎症性細胞、炎症のケミカルメディエータ(藤田)		
	11	炎症②	補体系、急性炎症と慢性炎症、炎症による全身症状、炎症の諸型(藤田)		
	12	免疫異常①	免疫の機構、免疫反応とアレルギーの型、免疫不全(坂爪)		
	13	免疫異常②	後天性免疫不全症候群(エイズ)、移植と拒絶反応、自己免疫疾患(坂爪)		
	14	腫瘍①	定義、組織学的分類、良性腫瘍と悪性腫瘍、異型性と組織学的分化度、多発癌と重複癌(坂爪)		
15	腫瘍②	癌の広がり方、癌の進行度、腫瘍随伴症候群、腫瘍の生物学、腫瘍発生の原因、癌遺伝子と癌抑制遺伝子(坂爪)			



2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

臨床検査学科

授業科目 (科目ID)	基礎血液学  22m115		担当教員  (実務経験)	池上 淳子  病院勤務医(免疫・血液)に従事し、 当該科目の教育を行う		
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	血液細胞や凝固因子が生体の維持にどのように関わっているかを学ぶ。正常・異常血液細胞について学ぶ。					
到達目標	各種血液疾患との関連性を説明できる。					
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「血液検査学」(医歯薬出版) ・プリント					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	80%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体80%の評価点とする。 ②小テストの成績を科目成績全体20%の評価点とする。			
	レポート	%				
	小テスト	20%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の 留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。 ③実習につながる授業内容であることを常に念頭に入れて、授業を受けること。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	血液の基礎と生理	血液検査の発展と意義、血液に関する発見の歴史、血液の成分と性状			
	2	血液の機能	物質の運搬、ガス代謝、栄養素、老廃物、生体の調節、防御、止血			
	3	血球の産生と崩壊	血球の分化と成熟、造血因子、造血器官			
	4	赤血球の生理	産生と崩壊、形態と機能、生化学			
	5	赤血球検査の異常	基準値、形態異常、多血、貧血			
	6	白血球の生理①	産生と崩壊			
	7	白血球の生理②	形態と機能:好中球、好酸球、好塩基球、リンパ球			
	8	白血球検査の異常	基準値、形態異常、機能異常、増加、白血球減少症、リンパ球の異常			
	9	造血臓器の疾患	白血病、骨髄増殖性疾患、骨髄異形成			
	10	血小板の生理と止血機構	産生と崩壊、形態と機能、血管機能、血小板機能			
	11	凝固線溶系①	血液凝固、繊維素溶解、分子マーカ-			
	12	凝固線溶系②	出血性素因、血栓症、抗血栓療法			
	13	血小板の異常、凝固線溶因子の異常	血小板減少症、機能異常症、増多症、凝固因子欠損、線溶亢進			
	14	血管異常による疾患、血液型に関する疾患	紫斑病、血液型不適合			
15	染色体の基礎と異常	構造と機能、分類と命名法、染色体地図、ヒトの染色体地図、先天性染色体異常症、腫瘍と染色体異常、出生前診断				

授業科目 (科目ID)	基礎免疫学  23m116		担当教員  (実務経験)	高橋 智哉  病院検査部輸血免疫検査業務に従事し、 当該科目の教育を行う	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	免疫に関する因子・細胞について基本的な知識を学ぶ。				
到達目標	免疫学で使用する専門用語を説明できる。検査法の原理を説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「免疫検査学」(医歯薬出版) ・必要に応じてプリント				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体70%の評価点とする。 ②小テストの成績を科目成績全体20%の評価点とする。 ③提出物の成績を科目成績全体10%の評価点とする。		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	10%			
その他	%				
履修上の 留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。 ③実習につながる授業内容であることを常に念頭に入れて、授業を受けること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	免疫系の構成要素	概念:免疫担当細胞 リンパ球 顆粒球、骨髄胸腺 末梢リンパ組織		
	2	自然免疫	病原体認識の特徴 要素、皮膚粘膜 貧食細胞、NK細胞 補体系		
	3	獲得免疫	抗原提示細胞、MHC分子、抗原プロセッシング		
	4	抗原の認識	B細胞の抗原認識 T細胞の抗原受容体		
	5	細胞性免疫①	T細胞活性化 CD4細胞 CD8細胞		
	6	細胞性免疫②	感染におけるメカニズム 免疫反応の終息		
	7	液性免疫①	B細胞刺激 シグナル伝達 B/T細胞相互作用		
	8	液性免疫②	抗体親和性 抗体の機能 補体の機能		
	9	能動免疫と受動免疫	ワクチンと免疫グロブリン療法		
	10	免疫寛容	中枢性寛容 末梢性T/B細胞寛容		
	11	疾患と免疫検査①	感染症:細菌 ウイルス 真菌 寄生虫		
	12	疾患と免疫検査②	腫瘍性疾患:腫瘍マーカー 胎児性抗原		
	13	疾患と免疫検査③	アレルギー:Coombs分類 I II III IV型		
	14	疾患と免疫検査④	自己免疫疾患:橋本病 バセドウ病 溶血性貧血 膠原病		
15	疾患と免疫検査⑤	免疫不全症:抗体産生の異常T細胞の障害 食細胞の障害			

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

臨床検査学科

授業科目 (科目ID)	基礎微生物学  22m117		担当教員  (実務経験)	北島 泉  検査センター微生物検査業務に従事し、 当該科目の教育を行う	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	感染症の原因となる微生物の分類・形態・機能などの特徴を学ぶ。微生物検査を行うために必要な基礎知識を学ぶ。微生物制御のための基礎知識を学ぶ。病原体の取り扱いとバイオセーフティについて学ぶ。				
到達目標	微生物(細菌、ウイルス、真菌)について特徴を説明できる。染色、培養、同定及び遺伝子検査について説明できる。滅菌及び消毒、化学療法やワクチンについて説明できる。法に基づく感染症や病原体の分類、感染防御について説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「臨床微生物学」(医歯薬出版) ・必要に応じてプリント				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体70%の評価点とする。 ②小テストの得点を科目成績全体20%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体10%の評価点とする。		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
その他	10%				
履修上の 留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②微生物(細菌、ウイルス、真菌)の基礎知識を学び、臨床微生物学での各疾病と病原微生物のつながりを理解する。 ③微生物検査におけるバイオハザードとバイオセーフティを理解することが微生物検査における危害の防止と精度管理に重要である。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	微生物とその分類	微生物の概念・分類		
	2	細菌の形態と構造、代謝と発育	細菌の大きさ、形態、構造、代謝、増殖、菌数測定		
	3	細菌の観察方法と染色法	観察方法、染色理論、染色法		
	4	細菌の発育条件と培養	細菌の化学的組成、栄養素、栄養要求性培養の目的、培地		
	5	細菌培養法	分離培養、純培養、継代培養、集落の観察、代表的な培養法		
	6	遺伝・変異と遺伝子診断	遺伝と変異の概念、遺伝子、プラスミド、形質伝達、変異、組換え、遺伝子診断		
	7	滅菌及び消毒	滅菌と消毒の概念、殺菌法、消毒薬、効力検定		
	8	化学療法とワクチン①	化学療法の概念、薬剤感受性検査、抗菌薬の種類		
	9	化学療法とワクチン②	化学療法の基本、副作用、ワクチン		
	10	正常細菌叢とその変動	常在菌の概念、分布、生理的機能、環境微生物		
	11	病原性と抵抗力	病原微生物、感染の概念、生体防御、病原性因子、感染症		
	12	微生物とその分類①	種類と分類(真菌・抗酸菌)、主な感染症		
	13	微生物とその分類②	種類と分類(ウイルス)、主な感染症		
	14	バイオハザードとバイオセーフティ	バイオハザードの防止、対策、バイオセーフティの構築		
15	病院感染と新興感染症、細菌検査の精度管理	病院感染、新興再興感染症、感染症に関する法律、検査の精度			

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

臨床検査学科

授業科目 (科目ID)	公衆衛生学  22m118		担当教員  (実務経験)	今谷 正則  保健所公衆衛生業務に従事し、 当該科目の教育を行う	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	公衆衛生学をとおして、地域社会の疾病と予防対策、身体的・精神的健康の増進、環境問題、保健・医療・福祉の制度などを学ぶ。				
到達目標	履修主題を理解し、各テーマ別に定めた問題点を解説できる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「公衆衛生学」(医歯薬出版) ・プリント				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	90%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体90%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体10%の評価点とする。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	10%				
履修上の 留意事項	①教科書、プリント及び板書を中心に講義形式の授業を行う。②問題提起を討論する形式も併せて行う。 ③履修主題について、予習すること。④公衆衛生に関する社会問題などについても調べておくこと。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	公衆衛生学総論	公衆衛生学の意義、健康問題の変遷、公衆衛生活動		
	2	疫学	疾病の分類、疫学の調査方法、スクリーニング		
	3	感染症	感染の成立と要因、予防対策、主な感染症		
	4	母子保健	母子保健対策とその課題、少子化問題について		
	5	学校保健	学校保健管理と学校感染症		
	6	精神保健	精神保健の現状と対策、依存症問題		
	7	食品衛生と栄養	食品安全と食品衛生(食中毒)、我が国の栄養摂取状況		
	8	生活環境	環境の現状、上下水道、廃棄物		
	9	公害	公害の現状と課題(水質汚染、大気汚染、地球規模環境問題)		
	10	産業保健	働く環境と産業保健、職業病の予防		
	11	衛生統計	疾病統計と人口動態・静態統計		
	12	成人保健①	疾病・生活習慣病の予防と対策、健康日本21		
	13	成人保健②	疾病・生活習慣病の現状と評価		
	14	社会保障と社会福祉	各種保険の仕組み、福祉問題		
15	衛生行政、関係法規	衛生行政と医療制度(医療法など)等			



2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

臨床検査学科

授業科目 (科目ID)	関係法規  22m119		担当教員  (実務経験)	遠藤 輝夫  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 病院検査部主任業務に従事し、 当該科目の教育を行う		
	対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	8	時間数	16時間	
授業目的	「医事法規」・「臨床検査技師等に関する法律」などの法の解釈について学ぶ。					
到達目標	臨床検査技師の業務範囲を説明できる。各種医事法規の存在理由を説明できる。					
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「関係法規」(医歯薬出版) ・プリント ・演習問題					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	80%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体80%の評価点とする。 ②プリント提出などを平常点として科目成績全体20%の評価点とする。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	20%				
履修上の 留意事項	①教科書やプリントを中心に、演習問題を交えた講義形式の授業を行う。 ②予習・復習を行うこと。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	法律の種類と医事法規概説	(第1章)法の概念(第2章)臨床検査技師と法律			
	2	臨床検査技師等に関する法律①	(第3章)臨床検査技師等に関する法律の全体像			
	3	臨床検査技師等に関する法律②	(第3章)臨床検査技師の業務内容、新しい業務			
	4	臨床検査技師等に関する法律③	(第3章)衛生検査所、検査用放射性同位元素、改正医療法			
	5	医事法規、薬事法規	(第4章)医事法規(医療法、保健医療関係者)(第5章)薬事法規			
	6	保健衛生法規、予防衛生法規	(第6章)保健衛生法規(第7章)予防衛生法規			
	7	環境衛生法規、労働衛生法規	(第8章)環境衛生法規(第9章)労働衛生法規			
	8	社会保障・福祉関連法規	(第10章)社会保障・福祉関連法規			
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

臨床検査学科

授業科目 (科目ID)	保健医療福祉概論  22m120		担当教員  (実務経験)	石岡 聡子  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 病院検査部血液業務に従事し、 当該科目の教育を行う	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	8	時間数 16時間
授業目的	医学の歴史、社会保障制度、保健・医療・福祉制度の概要を学ぶ。医の倫理と医療人としての心構えを学ぶ。				
到達目標	医学の歴史と医の倫理を説明できる。日本の社会保障制度、保健・医療・福祉制度を説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「保健医療福祉概論」(医歯薬出版) ・プリント				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体70%の評価点とする。 ②提出物の点数を科目成績全体10%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体20%の評価点とする。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	10%			
その他	20%				
履修上の 留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	医学の歴史①	医学の起源～中世の医学		
	2	医学の歴史②	近世の医学～現代、日本の医学史		
	3	病院の各部門の役割①	各部門の役割と使命		
	4	病院の各部門の役割②	臨床検査技師が行える生理学的検査		
	5	わが国の医療制度	医療体系、老人の医療と福祉		
	6	医療提供体制～医療保険	医療提供体制、医療法、医療保険制度		
	7	社会保障費～医の倫理	社会保障費、医療従事者の心構えなど		
	8	総まとめ	総まとめ		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

授業科目 (科目ID)	情報科学  22m121		担当教員  (実務経験)	木田 順士  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	8	時間数 16時間
授業目的	情報科学の基礎と情報の獲得、処理、加工などを学ぶ。				
到達目標	情報科学の基礎を説明できる。ハードウェア、ソフトウェアについて説明できる。ネットワークについて説明できる。システムについて説明できる。情報セキュリティについて説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「情報科学」(医歯薬出版) ・プリント				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	最高点を100点換算した得点を科目成績全体100%の評価点とする。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。 ③実習につながる授業内容であることを常に念頭に入れて、授業を受けること。④提出物の期限を守ること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	情報科学の基礎①	情報理論の基礎、コンピュータの情報表現		
	2	情報科学の基礎②	論理演算、暗号		
	3	ハードウェア	コンピュータの基本構造と動作原理		
	4	ソフトウェア	オペレーションシステム、アプリケーションソフトウェア		
	5	ネットワーク①	コンピュータネットワーク		
	6	ネットワーク②	通信プロトコル、ネットワーク接続		
	7	システム	システム設計とシステム開発		
	8	情報セキュリティ	ネットワークのセキュリティ		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

臨床検査学科

授業科目 (科目ID)	コンピュータ演習  22m122		担当教員  (実務経験)	木田 順士  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	8	時間数 16時間
授業目的	オフィスソフトを使用して情報の編集、加工などを学ぶ。				
到達目標	表計算ソフト(エクセル)の操作ができる。文書作成ソフト(ワード)の操作ができる。プレゼンテーションソフト(パワーポイント)の操作ができる。				
テキスト・ 参考図書等	・プリント				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	最高点を100点換算した得点を科目成績全体100%の評価点とする。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	①実習形式の授業を行う。②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。 ③実習につながる授業内容であることを常に念頭に入れて、授業を受けること。④提出物の期限を守ること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	エクセル①	基本操作、表の作成		
	2	エクセル②	データの分析、印刷		
	3	エクセル③	関数の使用方法		
	4	エクセル④	図形の挿入、グラフの作成		
	5	ワード①	基本操作、文章の作成		
	6	ワード②	図形の挿入、印刷		
	7	パワーポイント①	基本操作、スライドの作成		
	8	パワーポイント②	アニメーションの作成、スライド実行		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					